

井原市公共交通会議（平成 25 年度第 3 回） 会議概要

と き 平成 25 年 8 月 7 日（水）

15 : 00～16:30

ところ 井笠地域地場産業支援センター  
5 階 大会議室

1. 開 会

1) 会議の成立を報告

- ・ 出席者 委員 25 名中 実出席 23 名 代理出席 1 名

2) 三宅会長あいさつ

3) 委員の異動

- ・ 木村尚紀委員（備北バス株式会社）

4) 前回の会議概要説明（事務局）

2. 報 告

市内全バス路線利用状況調査の実施結果（井原あいあいバス）の概要について

- ・ 事務局説明  
質問無し

3. 協 議

路線・ダイヤの見直し（案）について

（民間の路線バス・井原あいあいバス・予約型乗合タクシー）

・ 事務局説明

（三宅会長） 委員のみなさんからご質問等はないか。

（委 員） 井原あいあいバスの岩野付近の経路変更について、昨日、現地を歩いて実際に確認してみた。現行の経路に比べて道幅の広い道路を通ることになり、安全・安心面から非常に良い見直しだと思う。事故が起きないように、バス事業者の方には今まで以上に安全に十分気をつけて運行していただきたい。

（三宅会長） このたびの変更は、新橋付近の道路拡幅工事が完了したことにより経由することができるようになったものである。ご意見のとおり、運行事業者には安全に十分配慮した運行をお願いしたい。

（委 員） 見直し案全般についての感想であるが、乗り継ぎの改善などにより利便性が向上するということなので良いと思う。また、西吉井や門田などの公共空白地区も解消されるということなので、今までよりも公共交通を利用しやすくなるのではないか。

（三宅会長） 井原～笠岡線の平日最終便の時刻繰り下げについて、JR 山陽本線との接続は確保されているのか。また、繰り下げにより、どのような利用者層が恩恵を受けることになるのか。

（事務局） 見直し案における笠岡発の最終便（21 時 10 分発）は、山陽本線下りの快速サンライナー福山行（21 時 5 分着）、上りの普通列車長船行（21 時 3 分着）と、それぞれ接続を図っている。これにより、帰宅が遅い場合は笠岡駅まで家族が迎えに来ていた通勤客に帰りもバスを利用してもらえないのではないかと考えている。また、本路線は高校生の利用が多いため、高校生の塾帰りの利用にも期待している。

- (三宅会長) 今回、路線によっては時刻や経路などの細かな変更が生じるが、どのような媒体により住民への周知を図るのか。
- (事務局) 9月号の「広報いばら」に記事を掲載するほか、「公共交通かわら版」を発行して周知する予定である。また、井原あいあいバスについては、全路線で時刻の変更が生じるため、井原地区の全世帯に時刻表を配布する予定である
- (三宅会長) 事務局には、利用者の掘り起こしに繋がるような細やかな周知方法について、検討してほしい。
- (委員) 矢掛～鬼ヶ嶽温泉・宇戸谷線の土日祝日の運行が無くなるということだが、減便にあたってのルール(手続き)はどのようになっているか。減便される可能性があることを知っていながらも、地域住民は利用しなかったということなのか。3回にわたる利用状況調査の結果、ほとんど利用がないという事実にも異論を挟む余地は無いが、路線の存続に向けて地域住民が努力するような機会が与えられていたのか確認したい。
- (事務局) 減便案を公表するのは今回の公共交通会議の場が初めてである。減便の検討にあたっては、過去3回の利用状況調査に基づく利用者数の実績に加えて、バスを実際に運行する運転士からの情報をもとに、どういう方が何曜日にどこまで行くのにこの路線を利用しているのかなどを把握しており、その方の生活に影響しないという判断で減便するものである。なお、廃止にあたってのルール作りについては、本年度中に方向性を出す予定である。
- (委員) 市内を走るバスの利用状況は路線によって様々であるため、利用者数の少ない路線は思い切って減便し、利用者の多い路線は資源を投じて(増便などにより)さらに便利にするという地域間の競争を取り入れても良いと思う。ただ、その際には、路線の必要性や存廃について考える機会を地元に与えることが重要である。利用状況調査の結果として減便なり路線廃止なりをするにしても、まずは地域住民に対して先に周知していくことが大切である。
- (事務局) 減便対象の路線についても、当該路線の利用状況と今後の公共交通のあり方について説明する機会を設ける予定である。
- (三宅会長) 見直しにあたっては地域住民に説明できるようなルール作りが必要であるというご指摘であった。今後は、減便や廃止によりバスの運行が無くなった場合の代替手段についても議論する必要があると考える。
- (委員) 矢掛～鬼ヶ嶽温泉・宇戸谷線については、鬼ヶ嶽温泉の営業が再開されれば状況も変わると思う。鬼ヶ嶽温泉の開発動向について、市として何か把握しているか。
- (三宅会長) 現在、開発に向けた動きは、話がなかなか前に進んでいない状態である。鬼ヶ嶽温泉がかつての景勝地としての輝きを取り戻せば、利用者の増加も期待できると考えている。今後も沿線の動向を見ながら、状況によっては土日祝日の運行復活なども含め、この公共交通会議の場で議論していきたい。
- (委員) 井原あいあいバスについて、嫁いらず観音線と馬越恭平線の増便やぶどうの里線の猪原経由により運転時間が長くなるが、乗務員の休憩時間は十分に確保されているか確認したい。
- また、井原町商店街では、左右どちら側にも路上駐車が多く、乗務員の立場からすると、安全性の向上のため、何らかの対策を講じていただけるとありがたい。
- (事務局) 休憩時間については、運行事業者と十分に打ち合わせをし、労務管理に支障をき

たさない範囲でダイヤを作成している。

- (三宅会長) 猪原を経由することにより、ぶどうの里線の所要時間は今までと比べて何分多くなるか。
- (事務局) 概ね5分程度である。
- (三宅会長) バスの運転時間が増えても、労務管理上の問題はないということで良いか。
- (事務局) その通りである。
- (委員) 井原あいあいバスの嫁いらず観音線と馬越恭平線の利用状況に関連して、四季が丘団地の小学生を対象とした通学バスの運行が本年の3月をもって終了したということだが、その後、地域住民から通学バスの再開を望む声は寄せられていないのか。
- (事務局) 以前は、通学路が危険であるということから、道路整備工事が完了するまでの間として、通学バスを運行しており、そのバスに乗り切れない小学生が嫁いらず観音線と馬越恭平線を利用していた。このたびに道路整備工事が完了し歩道が整備されたことにより徒歩で通学できるようになったため、通学バスの運行をとりやめたものである。事務局としては、通学バスの運行再開を求める要望は特に聞いてはいない。
- (三宅会長) 補足するが、運行廃止前は通学バスを残してほしいという要望は四季が丘団地の住民から寄せられてはいたが、運行をとりやめて以降、再開してほしいという要望を事務局としては今のところ聞いていないということである。
- (三宅会長) 他に、委員のみなさんからご質問等はないか。  
ご質問等がなければ、原案のとおり承認してよいか。

委員拍手（協議事項承認）

#### 4. 閉 会

仁科副会長あいさつ

以上